

国立大学法人山梨大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」をキャッチ・フレーズに、地域社会の中核として、地域の要請に応えることができると同時に世界を舞台に活躍できる、幅広い教養と深い学識、創造性、自律性、倫理観を持つ人材の育成を目指している。第2期中期目標期間においては、未来世代にも配慮した教育研究の推進や国際社会で活躍する人材の養成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、学生自身がビジョンを持ち、主体的でインタラクティブに学ぶ環境の実現を目指し、アクティブラーニング（反転授業など）を導入するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、科学技術分野の拡大・多様化や産業界等における人材ニーズを踏まえた教育研究組織の改革を進める戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、大学院組織等の在り方に関し、融合分野の教育・研究の推進や学位プログラム化の全学的展開を踏まえた改組再編等について検討を行っているほか、組織的かつ経営的観点から研究力の強化を図るため、「大学研究力強化委員会」を新たに設置するとともに、先端的医工農融合ライフサイエンス研究を推進するため、「発生工学研究センター」の設置に向けた検討を行っている。

（機能強化に向けた取組状況）

「山梨大学におけるグローバル化に関する方針」について、その取り組むべき具体的な事項を定めた行動計画を策定したほか、グローバル人材の育成と大学教育の国際化を推進するための組織について検討を行い、平成26年4月に「教育国際化推進機構」並びに「大学教育センター」、「教養教育センター」及び「国際交流センター」を設置することを決定するとともに、「グローバル人材育成プログラム」を開発し平成26年4月から実施することを決定している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化、③多様な教職員の活躍の促進）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 複数の学問分野による融合研究を推進するため、最先端融合研究プロジェクトを新設、融合研究1件、先駆的研究3件を採択し、計1億円を措置したほか、すでに優れた業績を有する研究者からなる研究組織に集中投資し、新産業の創出につながる基礎

的、応用的研究を推進するため、新産業創出プロジェクトとして 3,000 万円を措置することを決定し、平成 26 年 2 月に学内で募集を行い、5 件を採択している。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

- 大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向けた取組、特に入学定員の適正化に努めることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④環境配慮)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 17 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生自身がビジョンを持ち、主体的でインタラクティブに学ぶ環境の実現を目指し、アクティブラーニング（反転授業など）を導入し、従来講義で行っていた知識伝達を学習動画により事前に済ませ、講義では質問・実践演習・議論・発表等を行う形式に改善した。平成 25 年度は、9 科目に導入しており（6 名の教員により実施）、中間・期末評価において低得点者の大幅な減少と高得点者の大幅な増加が確認されている。
- 学生の学習意欲の向上を図るため、学生表彰規程の見直しを行うとともに、学部 3 年次生（医学部医学科にあつては 4 年次生）を対象に、学業成績優秀者について表彰状の授与及び奨学金（10 万円）の給付を行う制度を創設し、平成 25 年度は 19 名を表彰している。
- グローバル COE（アジア域での流域総合水管理研究教育）の終了後、学内経費によるプロジェクト定着事業に位置付け、「流域総合水管理研究教育拠点形成事業」として同位体等の水環境の先端研究の深化による研究論文発表、競争的資金の獲得（SATREPS（JST/JICA 暫定研究）、ALCA（JST）など）、国際流域環境科学ネットワーク（ICRE-Net）の活動開始、タイにおける国際ワークショップの主催などを行っている。
- 組織的かつ経営的観点から研究力の強化を図るため、「大学研究力強化委員会」を新たに設置して、検討を行い、客観的な研究力の分析及び各研究センターの将来構想を「山梨大学の研究力強化について（報告）」として取りまとめている。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 山梨県と連携して医師の地域間偏在の解消及び若手医師の県内定着を促進するため、「山梨県地域医療支援センター」を新たに設置し、医師確保策の検討、専門医養成プログラム作成検討懇話会の開催、勤務医・開業医実態調査の実施等の活動を行っているほか、臨床教育センターにおいても、研修医が多数の症例を経験できるようにするため、2 次救急輪番について、従前の 1 日につき研修医が 3 名参加する体制から 1 日につき 10 名が参加できる体制に変更し、卒後臨床研修における救急教育の充実を図っている。

（診療面）

- 4 月から強度変調放射線治療装置（トモセラピー）及び CT 一体型放射線治療装置（リニアック）の本格稼働を開始し、最先端のがん放射線治療提供体制の整備を行っている。（放射線治療件数：1 万 546 件）

（運営面）

- 増収に向けた取組の結果、平均在院日数（一般）を 13.9 日と対前年度比で 0.5 日短縮するとともに、入院・外来ともに一人の一日当たりの単価が平成 24 年度より上昇し、病院収入が約 157 億 8,000 万円となり、平成 24 年度比約 7 億 2,000 万円の増収につながっている。